

平成30年度大学図書館職員短期研修

平成30年10月3日(水) 京都会場(於 京都大学附属図書館)

平成30年10月17日(水) 東京会場(於 国立情報学研究所)

海外研修経験から見た大学図書館(1)

神戸大学附属図書館情報サービス課

総合・国際文化学情報サービス係

谷口 由佳

yuka.taniguchi1204@topaz.kobe-u.ac.jp

本日の内容

1. はじめに

1-1. 報告者について

1-2. 国立大学図書館協会海外派遣事業とは

1-3. 派遣までの道のり

2. 研修の内容

3. 研修を通じて得た知見

4. 皆さんにお伝えしたいこと

4-1. 日本の大学図書館へ帰ってきて

4-2. 海外派遣のすゝめ

1. はじめに

1-1. 報告者について

- 2012年4月～2014年3月（2年）
神戸大学附属図書館 雑誌情報係
- 2014年4月～2018年3月（4年）
同 海事科学情報サービス係
- 2017年9月17日(日)～10月1日(日)（2週間）
国立大学図書館協会海外派遣事業（長期）
- 2018年4月～現在（6ヶ月～）
同 総合・国際文化学情報サービス係

1-2. 国立大学図書館協会海外派遣事業とは

•概要

国立大学図書館協会が平成18年度から実施している
応募者は協会会員館の常勤職員から募集する

調査研究等テーマ・派遣先は応募者が検討し提出する

•目的

大学図書館職員の資質向上・育成

•内容

諸外国の先進事例を調査・研究し、国内で共有する
国際会議において日本の事例を発表する

1-3. 派遣までの道のり

• 準備

調査研究等テーマ・派遣先の決定、提出書類作成、応募
派遣先へのアポイントメント、連絡調整
必要書類の取得（ビザ、ESTAなど）
ホテル・航空券の手配、スケジュール詳細の決定
事前調査（訪問先、調査研究等テーマ、語学学習）
インタビュー項目の作成

• 渡航

研修、逐次報告

• 報告

学内報告、論文、発表、講演

2. 研修の内容

2. 研修の内容

日程：

2017年9月17日(日)～10月1日(日) (2週間)

<国立大学図書館協会海外派遣事業 (長期)>

テーマ：

北米の大学図書館におけるアウトリーチサービスの実態調査

派遣先：

セントラルフロリダ大学図書館 (UCF Libraries)

2. 研修の内容

UCF, UCF Libraries (2016年6月30日時点の概数)

- 学生数 : 66,000
- 教職員数 : 12,000
- カレッジ数 : 13
- 図書館数 : 14 (中央キャンパス4、遠隔キャンパス10)
- 図書館員数 : 45 …ライブラリアン
70 …スタッフ
95 …学生アシスタント (SA)
- 資料数 : 1,538,000 (冊子体)
156,000 (電子ブック)
52,000 (電子ジャーナル)
365 (データベース)

2. 研修の内容

Barbara Tierney氏 (研究情報サービス部長)



Barbara Tierney

📌 Department Head, Research & Information Services

🏛️ Research & Information Services

📍 John C. Hitt Library,
Room 203A

☎️ 407-823-5464

✉️ Barbara.Tierney@ucf.edu

Units & Groups: [Scholarly Communication](#)

2. 研修の内容

John C. Hitt Library (中央館)



2. 研修の内容

John C. Hitt Library (中央館)



2. 研修の内容

アウトリーチサービスの定義

■従来

図書館サービスを、圏域内にいたにも関わらずサービスが及んでいなかった人々に広げていく活動（移民、障害者、非識字者、受刑者、入院患者など）

■UCF Librariesにおける用法

カウンターでただ利用者を待つのをやめ、

図書館から出て利用者のいる場所へ向かう活動

（“From Reactive to **Proactive**”）

物理的な拠点の移動(ハード)は必須でなく
教育・研究活動との一体化(ソフト)に着目

2. 研修の内容

職位記述書

(Annual Assignment and Position Description)

- **65%** (26 hours) Reference Services
 - 45%** (18 hours) **Subject Librarian Outreach**
 - 15%** (6 hours) Reference and Information Desk
 - 5%** (2 hours) Ask A Librarian
- **10%** (4 hours) Library Instruction / Information Literacy
- **15%** (6 hours) Collection Development
- **5%** (2 hours) Scholarship and Professional Development
- **5%** (2 hours) Service

2. 研修の内容

アウトリーチサービスの内容

- **45% (18hours) : Subject Librarian Outreach**

→エフォート率45%、週に18時間を占める業務として
アウトリーチサービスが位置付けられている

- 担当の主題分野についての、
 - ・ 学科の会議への出席
 - ・ 教員との個人面談
 - ・ 個別相談や少人数ワークショップ
 - ・ eニュースレター・オンラインリサーチガイド作成
 - ・ 学術コミュニケーション支援

など

2. 研修の内容

ライブラリアンの学習・教育支援

- **カリキュラムと統合された各種サービス、教材**
 - …情報リテラシーモジュール、リサーチガイドなど
オンラインリソースの役割も大きい
- **ライティング支援**
 - …論文執筆ガイドや文献レビューについて指導する
- **包括的なキャンパスライフ支援**
 - …学術的意義・図書館資料にこだわらない

2. 研修の内容

ライブラリアンの研究支援

- **学術コミュニケーション**

- …研究ライフサイクルにおける8つの役割を定義する
サブジェクトライブラリアンへの研修も担当する

- **ワークショップ開催**

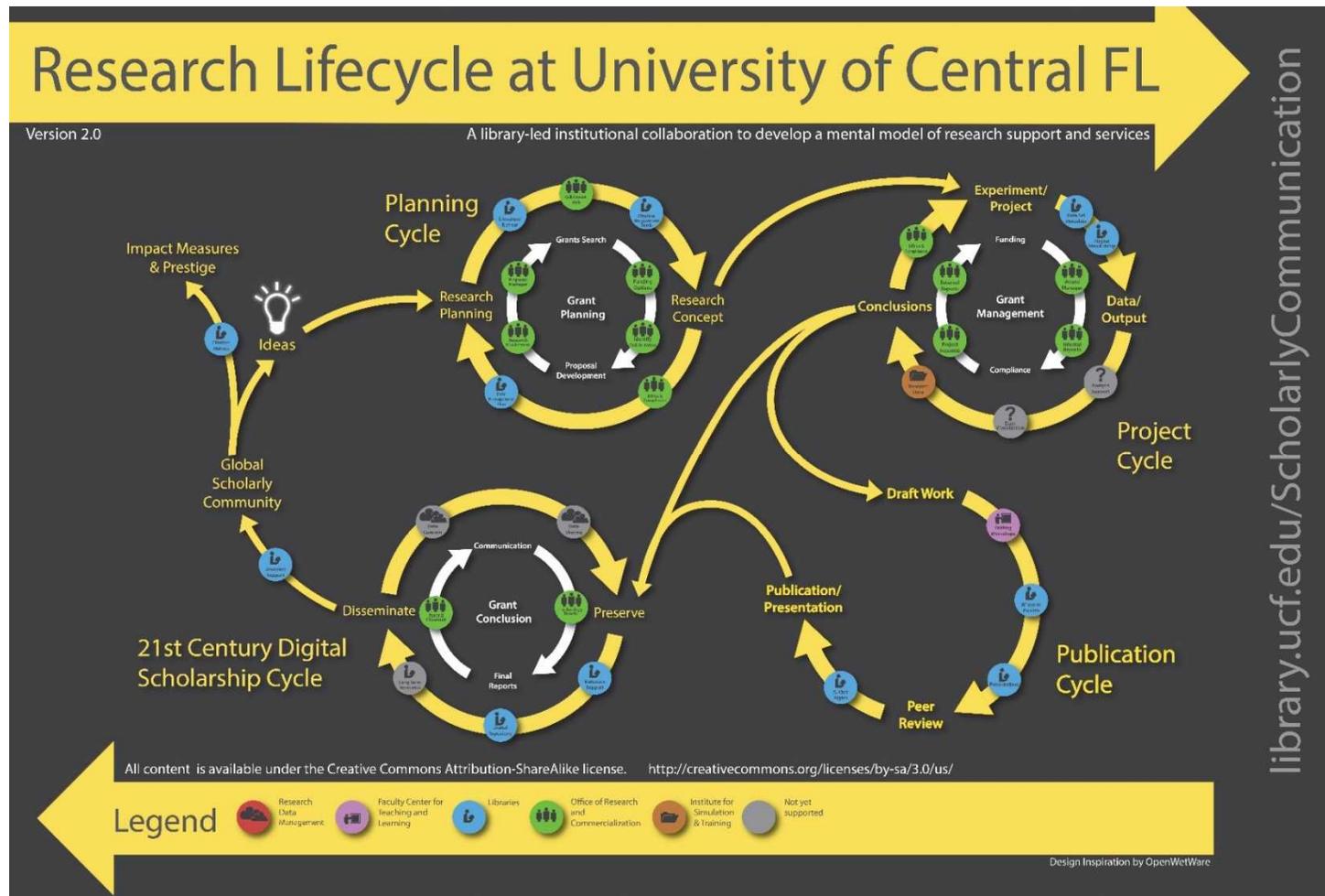
- …データベースなど製品紹介の需要が大きい
教員とライブラリアンの協働が見られる

- **院生・博士研究員・研究助手へのアウトリーチ**

- …研究内容に特化した研究相談やサービス紹介を行う

2. 研修の内容

ライブラリアンの研究支援



<https://library.ucf.edu/about/departments/scholarly-communication/>

2. 研修の内容

学内他機関との協働

- **University Writing Center**

- …ピア・チューターによるライティング指導

- **Office of Undergraduate Research**

- …学士課程学生による研究の支援

- **Student Development and Enrollment Services**

- …学生生活全般のサポート

- (障害学生サービス、編入学生サービス、初年次教育)

2. 研修の内容

学外他機関との協働

- **Ask a Librarian (AAL)**

…フロリダ州の図書館によるオンラインレファレンス



AskALibrarian.org
the Human Search Engine

**I'M HERE TO FIGHT
FOR TRUTH, JUSTICE AND
BETTER RESEARCH SKILLS.
BECAUSE SEARCH ENGINES
NEED SUPERHEROES**

Chat with, text, or email a Florida librarian: because search engines need superheroes!

The image features a superhero character in a blue and red suit with a yellow 'A' on the chest, crouching in a dynamic pose against a yellow background with radiating lines. To the left is the 'AskALibrarian.org' logo with a red question mark icon. To the right is a bold, red and black text block. Below the illustration is a grey box containing a call to action in white text.

2. 研修の内容

UCF Librariesの投資収益率 (ROI)

Return on Investment = 投資収益率

…**学生のGPA向上への貢献度**が指標

**図書館サービスを利用する学生 = ユーザーと
ノンユーザーの学業成績を比較する**

- ① インストラクション受講 (Curriculum-integrated)
- ② ライブラリアンとの個別研究相談
- ③ 図書館のグループ学習室利用
- ④ 情報リテラシービデオ利用
- ⑤ 情報リテラシーオンラインコース利用 (Embedded in UCF's courseware)

2. 研修の内容

アウトリーチの前提となる活動

- **Library Facultyとしての業務**
…大学運営やカリキュラム制定にも関与
- **ライブラリアンと図書館サービスの一体的な広報**
…ウェブサイトや動画、パンフレットでの自己紹介
研究室訪問や学内イベントへの参加
- **主題分野に関する研鑽**
…大学講義の受講によるスキルアップ

3. 研修を通じて得た知見

3. 研修を通じて得た知見

- 大学の教育・研究活動への統合を図るには、まず大学全体の組織や動き、目標を把握することが重要である
- 「図書館の目標と存在意義」「提供できる価値」を定めて、大学が目指す方向と一致させられると効果的である
- 教職員や学内他機関との協働には、サービス内容・担当者の一体的な広報や、業務としての事前準備が役立つ
- 条件が違う中で日本なりの「図書館の外に出るきっかけ」や「継続可能性のある活動」を考える必要がある

4. 皆さんにお伝えしたいこと

4-1. 日本の大学図書館へ帰ってきて

- 「**図書館業界の一部としての大学図書館**」と
「大学組織の一部としての図書館」のバランス
 - ➡館種に左右されないポリシー、自館の特性・特長の把握、幅広い図書館関係者との交流
 - ➡大学の特色・目標・計画・スケジュールなどを知り、大学図書館・所属部署・自分の役割を再考する
- **国内外の事例に対する目線**
 - 大学・大学図書館の厳しい状況（財政難・人員減…）
 - 図書館が持つ有形・無形のリソース
 - 事例やアイデアのストック
 - 予算や企画は突然に下りてくる

4-2. 海外派遣のすゝめ

- **行って、見て、経験してくる意義はある**

公表されている成果の実態・過程・内部事情、高密度の率直な意見交換、個人間・組織間交流の継続など、自分・図書館・国内に各種のメリット

- **渡航できる機会には限りがある（かも知れない）**

例：館長、部長、課長、事務長等の管理職、主として教育研究に携る者、46歳以上の者は対象外（国大図協海外派遣事業 応募要領第2条より）

- **英語（外国語）は学習できる**

英会話学校、オンラインレッスン、TEDアプリなど、手段も価格も様々

- **協力者・理解者は組織の内外にいるはず**

- **研究成果を広く報告・発表できる機会がある**